

社会福祉施設に係る感染症対策に関するアンケート調査の結果について

調査期間：令和5年10月30日（月）～令和5年12月1日（金）

調査対象施設：管内社会福祉施設のうち、高齢者及び障害者向けの入所施設（134施設）

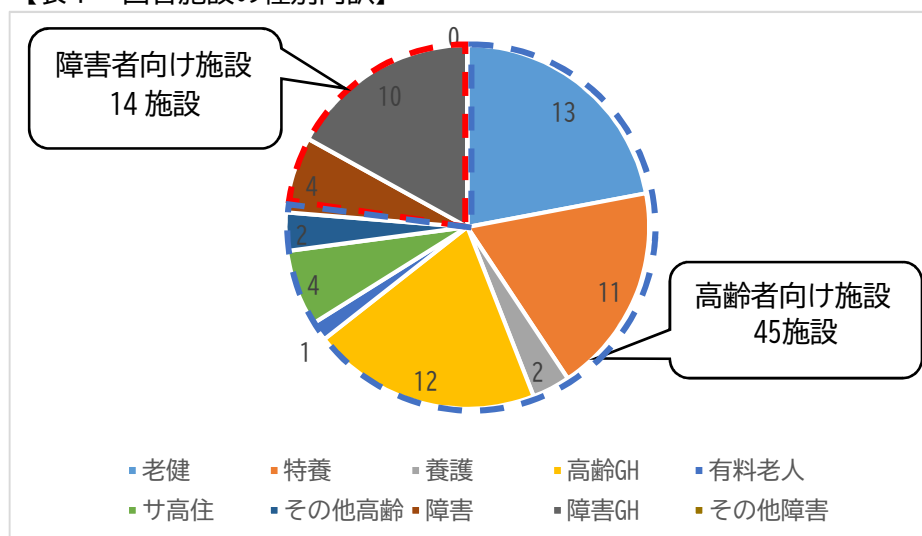
回答件数：59施設（調査対象施設の44.0%から回答有）

集計結果

○回答した施設の内訳

高齢者向け施設45施設（76.3%）、障害者向け施設から14施設（23.7%）、合計59施設からの回答があった。施設詳細の内訳は、下表1のとおり。

【表1 回答施設の種別内訳】



○感染症対策に係る医師（嘱託医）との連携状況

Qコロナ等、感染症対応において、医師（嘱託医）との連携・相談が重要となるところ、医師（嘱託医）との連携状況について、最も近いと思われるものを選択してください。

- ・医師（嘱託医）・又は協力機関の医師との連携が出来ていると回答したのは57施設（96.6%）、不十分であると回答したのは2施設（3.4%）であった。

→医師（嘱託医）及び協力機関との間では、概ね連携体制が確立されているものと思料される。

○施設における看護師等の配置状況

Q感染症対応において、看護師等（保健師・准看護師等含む）が配置されていることで、迅速な対応等が期待されること、各施設における看護師配置状況について選択してください。

- ・施設基準等により、配置が義務付けられている施設は35施設、うち4施設から看護師数が十分でないとの回答有。
- ・配置義務のない施設の中でも15施設では看護師等を配置しており、うち5施設では看護師数が十分でないとの回答有。
- ・看護師配置義務のない施設は9施設あり、うち3施設から看護師の必要性を感じているとの回答有。

→看護師の配置（増配置含む）の必要性を感じている施設は12施設（20.3%）と、5施設に1施設の割合である。

○新型コロナウイルス感染症の発生状況

Q 貴施設において、これまでに新型コロナウイルス感染症に感染した方は発生しましたか。

・感染者が発生したのは、57 施設 (96.6%)、うち 50 施設 (84.7%) で利用者・職員両方で感染が確認されている。

→ほぼ全ての施設において、感染者発生があった。

○新型コロナウイルス感染症の発生状況

Q 貴施設では、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したことはありますか。

※クラスター… 1 施設において、同一時期で 5 名以上感染者が発生した場合。

・クラスターが発生した施設は、43 施設 (72.9%)、うち複数回発生した施設は 22 施設 (37.3%)、1 回のみであったのは 21 施設 (35.6%) であった。

→新型コロナウイルス感染症の感染者があった施設では、7 割を超える施設でクラスター発生となり、また、その半数は複数回のクラスター発生があった。

○自施設内での経過観察について

Q 貴施設において、新型コロナウイルス感染症の疑いがある利用者が発生した場合、経過観察等を行う体制（隔離室等）は整っていますか。

・58 施設 (98.3%) から体制が整っている旨の回答有。うち、隔離室が確保されているのは、25 施設 (42.4%)

→コロナ禍でのクラスター対応等を乗り越え、施設の体制も工夫されてきたものと思料。

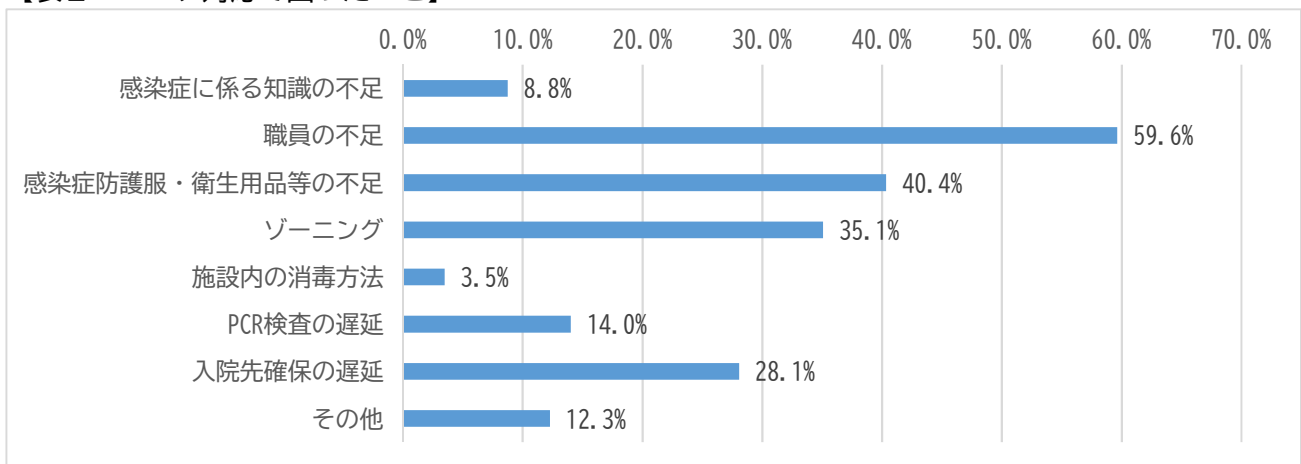
○新型コロナウイルス感染症患者発生時に困ったこと

Q (コロナ患者が発生した施設 (57 施設) を対象) コロナ対応で困った点を選択してください (複数選択可)。

・回答が多かった順に①対応できる職員が不足した、②感染症防護服・衛生用品等の不足した、③施設内でのゾーニングがうまくいかなかった、の順となった。回答内訳は下表2のとおり。

→介護関係は元々人員不足が叫ばれている中、職員にも感染者が出ることで、対応できる人員が更に限られたものと思料される。

【表2 コロナ対応で困ったこと】



～その他意見～

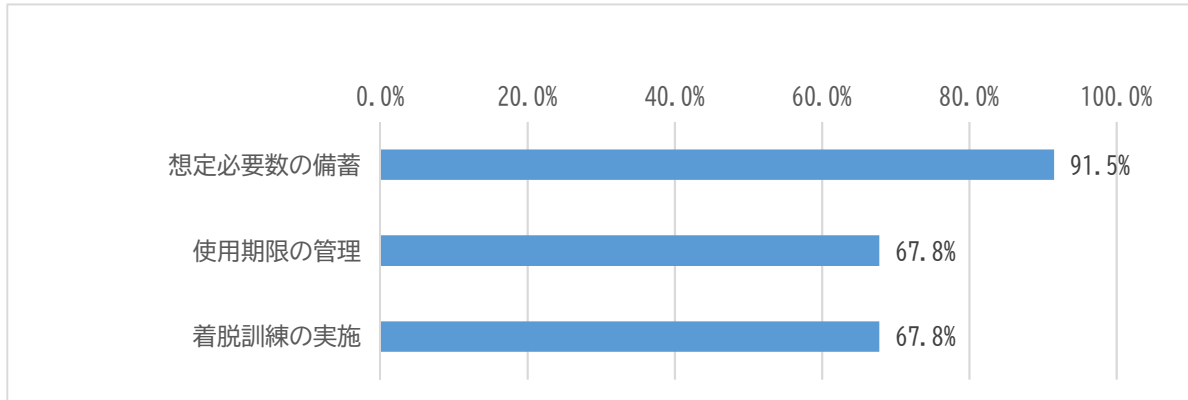
- ・入所者の病状により、理解が得にくい (2 件)
- ・感染拡大防止のための使い捨ての食器の確保 (2 件)
- ・家族の理解が得にくい (1 件)
- ・職員の負担増及び入所者の ADL 低下 (1 件)
- ・オムツ廃棄業者との調整困難、換気対策が困難 (入所者が窓を閉めてしまう) (1 件)

○平常時からの予防対策（感染防護具）

Q平常時からの感染防止策として感染防護具に関する準備状況について出来ている項目を選択してください。

- ・9割超の54施設において、想定必要数の備蓄がなされているが、使用期限の管理や着脱訓練の実施までされている施設は、7割を下回る40施設に留まる。（下表3のとおり）
- 有事に備えるためには、定期的な資材管理や訓練の実施が望まれるところ。

【表3 平常時からの予防対策（感染防護具）】

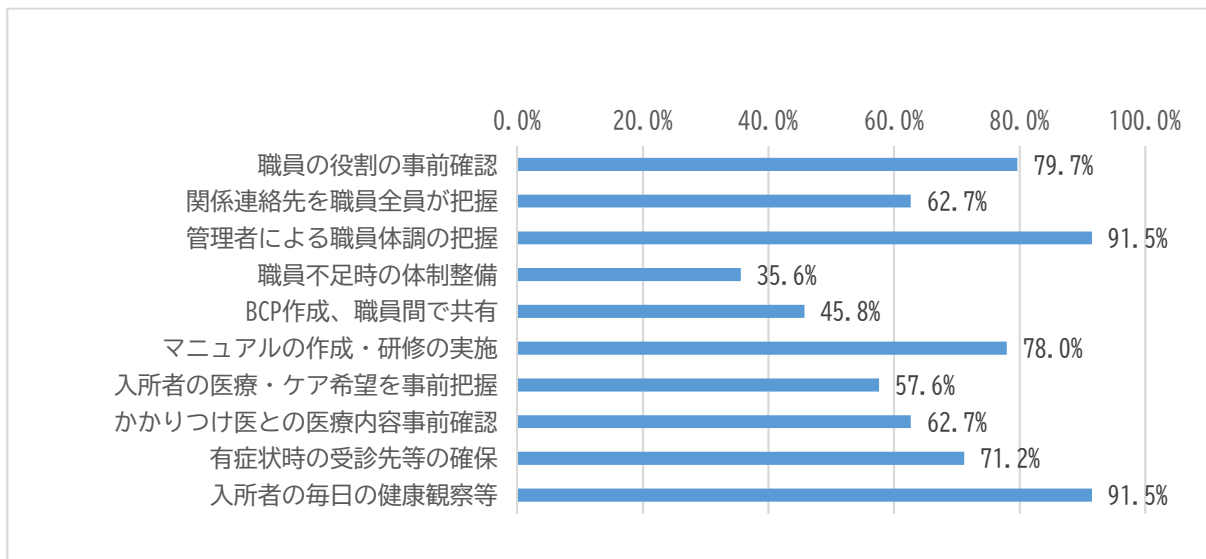


○平常時からの予防対策（体制づくり・医療との連携）

Q平常時からの感染防止策として体制づくり・医療との連携に関する準備状況について出来ている項目を選択してください。

- ・管理者による職員の体調管理や、入所者の毎日の健康観察等は9割を超える施設で出来ている一方で、職員不足時の体制整備や、BCP作成と職員間での共有などが出来ている施設は5割以下となった。（表4のとおり）
- 職員不足に関しては、感染症対策に限られない入所施設の長期的な課題であるところ、まずは、出来るところ（やりやすいところ）から、感染対策の充実を進めていくことが重要。
- 例えば、関係連絡先を職員全員が把握は、スタッフルームに連絡先一覧を掲示する等により、短期に改善が可能な点である。

【表4 平常時からの予防対策（体制づくり・医療との連携）】

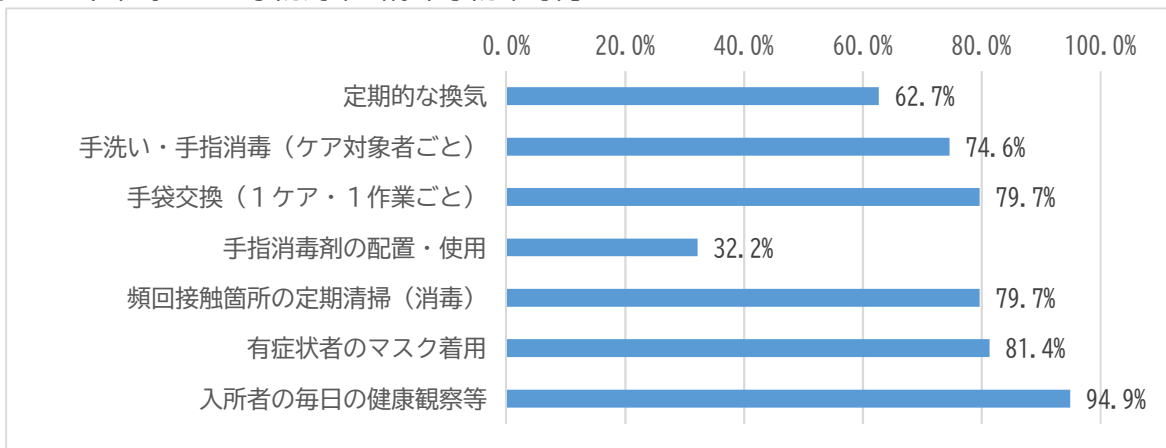


○平常時からの予防対策（標準予防策等）

Q 平常時からの感染防止策として標準予防策等に関する準備状況について出来ている項目を選択してください。

- ・標準予防策等のうち、定期的な換気、手洗い手指消毒、手袋交換などは、感染防止のために特に徹底すべきものであるところ、6～8割程度に留まっている点、改善が特に望まれる（下表5のとおり）。
- ・また、手指消毒剤の配置・使用については、出来ているとしたのは、3割程度に留まっており、入所者の特性等から、置き型を一定の間隔での配置等の難しさがある等が思料されるが、小型の携行品を活用するなど、改善の余地がないか検討いただきたい点である。

【表5 平常時からの予防対策（標準予防策等）】

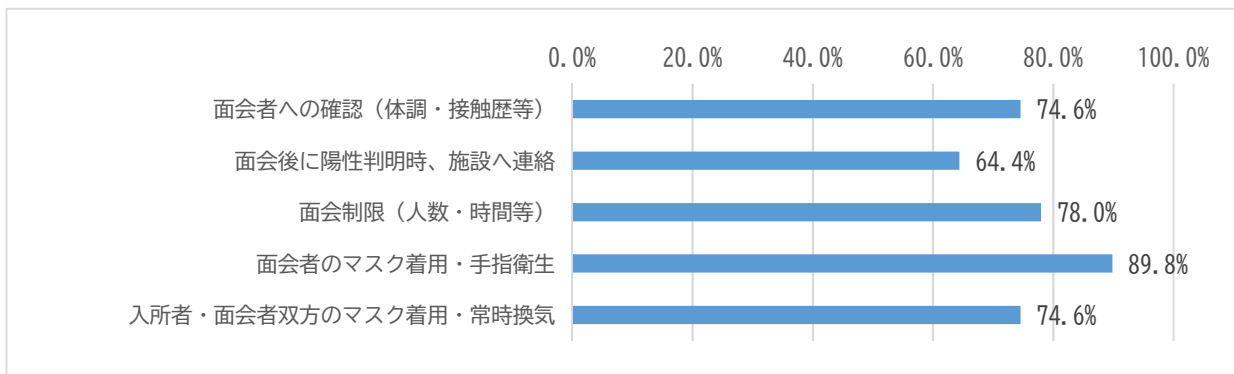


○平常時からの予防対策（面会対応）

Q 平常時からの感染防止策として面会対応に関する準備状況について出来ている項目を選択してください。

- ・施設外からの持ち込みによる感染症の拡大を防止するため、面会制限等、やむを得ず対応していた（現在も緩和しながらも継続）ものと思料。回答を見る限り、入所者よりも面会者への制限・協力を仰ぐことに苦労していた（している）と思料される（下表6のとおり）。

【表6 平常時からの予防対策（面会対応）】



【問い合わせ先】

茨城県筑西保健所保健指導課 高野・宮田
 住所：筑西市二木成615
 電話：0296-24-3965
 E-mail:chikuho05@pref.ibaraki.lg.jp